令和６年度（２０２４年度）

第１回知床世界自然遺産地域連絡会議

議　　事　　録

日　時：２０２４年１０月２９日（水）午後１時開会
場　所：羅臼漁業協同組合　３階　大会議室

１．開会

●北海道（遠藤）　定刻となりましたので、ただいまから、令和６年度第１回知床世界自然遺産地域連絡会議を開催いたします。

本日は、大変お忙しい中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の進行を務めさせていただきます北海道環境生活部自然環境課の遠藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の地域連絡会議は羅臼町での開催ですが、Ｚｏｏｍによるオンラインシステムを併用しております。オンラインでの参加の皆様につきましては、発言時を除きまして音声をオフにしていただきますようお願いいたします。

また、参加者の皆様へのお願いですが、ご発言の際にはご所属とお名前をお願いいたします。

２．挨拶

●北海道（遠藤）　それでは、開会に当たりまして、会長の北海道環境生活部自然環境局長の竹本よりご挨拶を申し上げます。

●竹本北海道自然環境局長　道庁の竹本と申します。

本日は、今年度第１回となります知床世界自然遺産地域連絡会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

また、日頃から知床世界自然遺産の保全管理にご尽力をいただいておりますことに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

この会議は、知床の保全管理の推進のため、地域の皆様のご意見をいただきながら遺産地域の管理に生かしていく貴重な場でございます。

本日は、各行政機関におきます実施事業の取組状況ですとか、科学委員会、各ワーキンググループの検討状況につきましてご報告をいただくことになっております。また、国立公園６０周年、それから、世界遺産２０周年記念事業の実施状況の報告や、今後の事業のご検討をいただくこととしております。さらに、本日は北海道東トレイル運営事務局の寺山様から「歩く旅から見える知床の価値」としてご講演をいただくことになっております。

知床の普遍的な価値をよりよい形で後世に引き継いでいくために、改めてお集まりの皆様のご協力をお願い申し上げまして、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

●北海道（遠藤）　続きまして、羅臼町の湊屋町長よりご挨拶をいただきたく存じます。

●湊屋羅臼町長　皆さん、こんにちは。

本日は、世界遺産の地域連絡会議ということで、こうして大勢の皆さんに羅臼へお越しいただきました。心からご歓迎を申し上げたいと思います。

ただいまお話にあったとおり、こうして皆さんと知床の普遍的な価値をしっかり後世に

残していくという共通認識を持っていただくための会議と認識しているところでございます。そういった意味では、この知床は、世界遺産と呼ばれるだけのものがあって、世界各地に今後もいろいろな形の中で発信していく必要があると思っているところです。

根室管内は１市４町で構成しておりまして、北海道に１４ある振興局の中の根室振興局の１市４町ですが、先日の土曜日に台湾へ代表として行かせていただきました。そこでお会いしたのが台湾の野鳥保育協会でございまして、昨年お邪魔したときに、ぜひとも知床を含めた東北海道の地域と一緒に活動したいというお話がありました。日本で言う野鳥の会のような集まりですから、その人たちもここの自然を楽しみたいと。今日もエコツーリズムの分科会から報告もあるということですが、そういった思いがあって、野鳥保育協会と、根室市ほか羅臼町も含めた４町で協定を結ばせていただいております。

今後、台湾等の海外、特にヨーロッパの方々がこの地域を訪れてくれる機会も増えると思っております。当然ながら、自然環境保全を大前提にした上で、そういった方をいかに受け入れるかということを、ここにお集まりの皆さんと今後相談していかなければいけないだろうと考えているところでございます。

今日は、こうしてお集まりをいただいて、分科会からの報告もいただき、今日ご講演をいただきます寺山さんから、先日、弟子屈町で式典もございましたけれども、北海道東トレイルということで羅臼町がゴールになっておりまして、ちょうどすぐそこにあるしおかぜ公園がゴールになっています。ここも多くの方に知床を含めた東北海道を楽しんでいただきたいと考えているところでございますので、斜里町とも一緒に、トレイルを含めて、今後とも、知床自然遺産について自治体として頑張ってまいりたいと考えております。今後とも、今日お集まりの様々な方々のご協力をお願い申し上げます。

私は１時間ぐらいで公務のために中座しなければいけない状況になりまして、大変申し訳ございませんが、今日の会議が有意義なものになることをご祈念申し上げまして、地元羅臼町からの挨拶とさせていただきたいと思います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

◎連絡

●北海道（遠藤）　それでは、議事に入ります前に、資料の確認です。

次第の裏面に配付資料の一覧がございます。資料１－１から資料５まで並んでおります。なお、資料の不足等がありましたら、事務局までお申出願えればと思います。

３．議事

●北海道（遠藤）　それでは、会議次第に沿って進めてまいりたいと思います。

まずは、議事の（１）の環境省、林野庁、北海道の実施事業報告です。

資料１－１についてですが、それぞれの機関が本年度実施した事業について、これから

の予定も含めて一覧にまとめたものとなりますので、確認してください。

本資料に関しまして、環境省から補足説明などはございますでしょうか。

●環境省（吉田）　特にありません。

●北海道（遠藤）　林野庁はいかがでしょうか。

●林野庁（川﨑）　特にありません。

●北海道（遠藤）　北海道からも特に補足などはございませんが、本資料に関しまして、皆様からご意見などがありましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤）　ないようでしたら、次の議事に移りたいと思います。

続きまして、資料１－２のエゾシカ対策事業の結果についてです。

１の遺産地域内について、環境省の所管ですが、補足説明などはございますでしょうか。

●環境省（吉田）　特にありません。

●北海道（遠藤）　めくっていただきまして、２と３は隣接地域についてですが、林野庁、斜里町、羅臼町から特に補足説明などがございましたらお願いいたします。

特にないようですので、皆さんからご意見などがありましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤）　次の議事に移らせていただきます。

続きまして、議事（２）になりますが、こちらは下部部会からの報告になります。

まず初めに、知床ヒグマ対策連絡会議からよろしくお願いいたします。

●北海道（三井）　今年度、知床ヒグマ対策連絡会議の事務局を務めさせていただいております北海道知床分室の三井と申します。よろしくお願いいたします。

資料２－１により説明させていただきます。

資料２－１につきましては、知床財団の協力を得まして作成していただいものです。

まず、１番目です。

令和６年度のヒグマ目撃件数でございますが、括弧内が去年の数字になっております。

昨年度に比べまして、今年度は減少しているところではあるのですけれども、次の２のトピックを見ていただきまして、まず、冬眠明けから初夏にかけて、斜里町と羅臼町の両方で市街地においてヒグマの出没が発生しております。大量出没があった翌年度は尾を引く傾向があるそうですので、６月、７月ぐらいまでは昨年度の尾を引いて市街地への出没があったのですけれども、７月、８月の頃には大体落ち着いてきておりまして、結局は大量出没があった昨年度を除きまして平年並みに戻っている状況です。

また、斜里の市街地近郊の農地において、ヒグマの有害捕獲に従事していた実施隊の方がヒグマに襲われて負傷する事故も発生しております。

各町のトピックですが、斜里町の①で、斜里町の市街地でのヒグマの出没が計１１件、ウトロの市街地で９件、斜里の市街地で２件ありました。

ページをめくっていただきますと写真があるのですけれども、写真１にウトロの市街地

に出没したヒグマが写されております。

戻っていただきまして、②のウトロの市街地で、昨年度に引き続きまして、自動撮影カメラによる監視対応ですとか、電気柵、草刈りなどによる出没対策を実施しております。

今年度より新たにＡＩ判別自動撮影カメラやドローンの導入による対策の強化を図っておりまして、羅臼町側でも同様の対策をしていただいております。

③ですが、斜里市街地の周辺農地での出没が例年と比較して多い傾向にあります。

斜里市街地に隣接する防風林沿いで５月から７月にかけてヒグマの出没が相次ぎまして、住宅敷地に置いてあったビートポットを荒らされるなどの被害が発生しております。

２ページの下の写真が航空写真ですけれども、黄色の丸のところに出没している状況です。

戻っていただきまして、④ですが、７月から８月にかけまして、町内の養鹿施設内のシカがヒグマに食害されるという事案が発生しております。電気柵を追加設置して侵入を防止するとともに、箱わなを使用して２頭のヒグマを有害捕獲しております。

次の２ページ目に移ります。

⑤ですが、地域の企業と協働でウトロ市街地周縁部のササ刈り、草刈りを実施しております。これにつきましては継続した取組でありまして、今年で５年目になっております。

⑥ですが、先ほどのトピックでお知らせしたとおり、７月３０日に斜里市街地周辺の農地に隣接する防風林でヒグマの有害捕獲をしていたハンターがヒグマに襲われて軽傷を負うという事案が発生していました。

次に、３ページ目、羅臼町のトピックになります。

①ですが、４月から６月にかけまして、市街地内におけるヒグマの出没が昨年度を上回るペースで発生しておりましたけれども、８月以降につきましてはヒグマの出没が落ち着いております。ミズナラやハイマツといった餌資源の状況が今年度はよく、さらには、昨年度発生した大量出没時の捕殺によって、一時的には個体数が削減されたという効果であると考えられております。

下の写真に、５月に小学校の裏に出没したヒグマの雄、成獣個体の写真ですとか、その下には市街地内で発見されたヒグマのふんの写真を掲載しております。

②ですが、水産加工の残滓や干し魚などがヒグマに荒らされるという被害は、昨年度はあったのですけれども、今年度は発生しておりません。

今年度の市街地へのヒグマの出没なのですけれども、ただ単純に住宅地内をヒグマが徘徊したり、住宅地裏の草地にヒグマが出没したというケースが多くを占めておりまして、要は、水産物の残滓ですとかごみによってヒグマを誘引したものではなく、ただ単にヒグマが徘徊するような事例が発生しています。

③ですが、各町内会と協働で市街地内のヒグマ対策、草刈りを実施しておりまして、こちらも継続した取組で５年目になっております。ヒグマが身を潜めるやぶの除去や地域住民のヒグマ対策意識の醸成を目的としておりまして、多くの方に参加していただいておる

ところです。

次に、４ページ目の国立公園内のトピックです。

４月２９日と７月１１日に知床五湖の高架木道の入り口で、雄、成獣サイズのヒグマが利用者に対して威嚇突進を繰り返す事案が発生しました。７月１６日には高架木道入り口で対策員がヒグマにまた威嚇突進されまして、７月１１日から１６日の間にヒグマがずっと潜んでおりまして、時々、威嚇突進とか出没がありましたものですので、７月１６日に関係者の中で協議をしまして、当該ヒグマの有害捕獲に踏み切ったものであります。行動段階３と書いてあるのですけれども、これにつきましては、クマが人に付きまとったり、攻撃をした場合に行動段階３ということで、問題個体と判断して捕獲しております。

威嚇突進というのは、考え方がなかなか難しいのですけれども、例えば、親子連れのヒグマですとか、あと、ヒグマが自分の餌をどこかに埋めて、餌に執着しているヒグマがもしいるとしましたら、それはとても危険な事例ですので、威嚇突進してくることは当然考えられるのですが、今回の事例につきましては、そういった要因がない中で威嚇突進をしてきたので、問題個体と断定して捕獲に踏み切ったものであります。

②ですが、９月以降に斜里町の岩尾別川周辺で頻繁にヒグマが出没しまして、多数のカメラマンや利用者が連日、川沿いで待機している状態が続いております。また、現地の混雑や交通障害も頻繁に発生しておりまして、ヒグマへの接近、人が付きまとう問題行動も時々確認されておりまして、これにつきましては、現在も環境省とか知床財団を中心に指導や監視を続けているところであります。

③ですが、知床横断道路の羅臼側ですけれども、人を避けないないヒグマが６月１８日に発生しまして、道路の周辺で有害捕獲をしております。

過年度において、車両への付きまといですとか、ドアミラーの破壊行為などが疑われた個体が数頭いたのですけれども、今回の当該個体はそのうちの１頭であることが遺伝子分析によって明らかになっております。

国立公園内の事例は以上になっています。

以上が、令和６年度の斜里町、羅臼町のヒクマ目撃対応状況になります。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

ただいまの報告に関しまして、ご意見などがございましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤）　特にないようでしたら、ヒグマの問題に関しましては、資料の１枚目の上の表にもあるとおり、今年度は昨年度と比べて目撃件数なり対応件数なり有害捕獲頭数も減少している状況がありますけれども、実際に対応をなされている羅臼町さん、斜里町さんからお感じになられていることがありましたら、一言ずつお願いできますでしょうか。

羅臼町さんからお願いします。

●羅臼町（田澤）　羅臼町の産業創生課の田澤です。

新たなことはないのですけれども、今年はすごく極端で、７月までは大量出没の昨年と同じぐらいのペースでクマ対応があったのです。ところが、８月に入って、少なくとも海岸沿いの低標高の地域、つまり、人家の近くではほぼないと言ってもいいぐらい、３件ぐらいはあったかもしれないですけれども、ほかはみんな知床横断道路での対応でした。それも数は少ない状態でした。

私自身、この３か月ぐらいクマを見てないということは近年にはないと思うのですけれども、ぜひ来年以降もこのペースでいってほしいと思っています。

●北海道（遠藤）　ありがとうございます。

斜里町さんからお願いいたします。

●斜里町（増田）　昨年の大量出没と比較しますと、今年は通常年に戻ったという印象でございます。

先ほどありました知床五湖で滞留して、ブラフチャージ等の威嚇行動を繰り返したという個体がいました。これに関しては、滞留理由がはっきりしないといいますか、ここにあえていなくてもいい場所に滞留していたということで、捕殺後、かつて斜里町側では失明したクマが、外傷等を負っていて、こちらからは分からなかったのですけれども、後でよく見るとクマ自体がけがをしていてブラフチャージを繰り返していたという例があったのですけれども、今回に関しては、特段目立った外傷等は分かりませんでした。

市街地周辺での緊急対応に関して鳥獣保護管理法の見直し等をお願いしたところ、今、既にそういう方向性になっておりますので、法が改正されて、さらに運用上、現場に即した、これは北海道だけではなくて、全国的な今の状況の中で、鳥獣保護管理法、あるいは警察の対応も含めて、様々な意味で危機対応ができるような形に運用がどんどん改善されていけばいいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

●北海道（遠藤）　大変ありがとうございました。

今、お話がありましたとおり、例年に戻ったような傾向にあるということですけれども、今後も引き続き、クマの対応について注視していかなければいけないということだと思いますので、よろしくお願いいたします。

●湊屋羅臼町長　よろしいですか。

今の報告を受けまして、知床の取組については、こういう意見交換をさせていただいたり、分科会等、また、データを基にクマの生態やいろいろなことを協議しています。

先ほど斜里町からもありましたが、全道的にとか全国的に考えると、昨日もあったのですけれども、全道の町村会の農林水産委員会の中でヒグマ対策を考えているのです。

農林水産委員の会議の中で話すということは、結局は農作物への被害という観点でヒグマを捉えている感じです。ですから、いろいろ制度も変わった中で、極端なことを言うと、見えたら撃っていいのだろうという感覚にとらわれている地域があって、そこでハンターの問題とかいろいろなことが議論されております。

人命の問題とかいろいろなことがあるのですが、クマのことをちゃんと理解しながら、

ヒグマのことを理解しながら、まずはどういう対策を打たなくてはいけないのかということが分かっていない地域もあるのです。そこにクマが出没するという去年のような状態が続いているのです。

ただ、この会議の中でいろいろなデータをお持ちだと思います。これは北海道が仕切っているのですけれども、そういった意味では、この会議の中で得られるクマの情報であったり、人間がクマとのあつれきを避けるために行う、例えば緩衝地帯をつくるとか、この辺で言うと、魚を外に干さないとか、ごみを出さないとか、そういう小さな活動がもっと全道的に広まらないと、どうしてもヒグマが敵とみなされていってしまう状況になりつつあるので、もし北海道がここで得られた情報やクマへの対処法を含めて、ぜひ北海道の中で、いろいろな自治体と情報共有をしていただければ、もっともっと人命を救える場面は出てくるのかなと思っています。

この会議の趣旨とちょっと違う話をさせていただきましたが、きっとそういうこともこの会議があって、ここで得られたデータをしっかり皆さんに伝えているという意味では重要なことではないかと思いましたので、お話しさせていただきました。

よろしくお願いします。

●北海道（遠藤）　どうもありがとうございました。

●竹本北海道自然環境局長　　ここで得られた知見や、各振興局ごとに地域の連絡協議会もありますので、そういうものも通じて情報提供をできればと思っております。

また、今、ヒグマ管理計画の改定作業をしておりまして、今後、ゾーニングの管理の在り方やモニタリングをもっと充実していくという議論をしておりますので、そういう周知も行っていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いします。

●北海道（遠藤）　大変ありがとうございました。

続きまして、シンボルマーク部会からの報告をさせていただきます。資料２－２でございます。

●北海道（真野）　北海道庁自然環境課の真野と申します。

続いて、資料２－２をご覧ください。

今年度のシンボルマークの使用申請状況等についてですが、今年度の申請許諾件数は、現在のところゼロ件となっています。現在継続中の許諾件数は５件となっています。

そのほか、シンボルマーク部会では、昨年にシンボルマーク運用規程の改定を行っています。

これまで、シンボルマークの申請の条件を斜里町または羅臼町に住居を有する個人や団体に限定していましたが、これを改定し、斜里町または羅臼町の主原料を用いて生産された商品の販売において、その主原料の生産地が証明できれば、斜里町、羅臼町以外に住所を置く個人、団体等も許可可能としております。また、シンボルマークの使用許諾を受けた者が申請内容を変更する際は、改めて申請が必要になることを明記しております。

シンボルマーク部会からは以上です。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

ただいまの報告に関しまして、ご意見などがありましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤）　なければ、次に、適正利用・エコツーリズム検討会議からのご報告をお願いいたします。

●環境省（吉田）　環境省釧路自然環境事務所の吉田と申します。

適正利用・エコツーリズム検討会議からの報告について、資料２－３でご説明させていただきたいと思います。

かいつまんでご説明をさせていただきますが、２に書いてあるとおり、今年の６月２１日に第１回目の会議を開催いたしました。

議事内容については、下に書いてあるとおりです。

その中で、②の個別部会等からの報告ということで、個別の部会からは、（１）厳冬期の知床五湖のエコツアーについての報告と、（２）知床五湖における取組ということで、こちらは環境省からになりますけれども、知床五湖の１湖で実施している外来スイレンの除去事業についてのご報告、（３）カムイワッカの湯の滝利活用検討事業ということで、４年目に入っておりますので、そちらの進捗状況についてという３件のご報告がありました。

続きまして、③の関係機関からの報告ということで、（１）ホロベツ園地の再整備事業についてのご報告、それから、斜里町のほうで取り組んでおりました（２）知床アクティビティリスク管理体制検討協議会の検討状況について、（３）として、羅臼町から第８期羅臼町総合計画の中での観光分野の施策に言及している部分についてご報告をいただいております。

（４）国立公園指定６０周年・世界遺産登録２０周年記念事業についても、検討会議でもその時点の状況をご報告させていただきましたが、本日も後の議題で詳しくご説明させていただければと思っております。

次の④の知床エコツーリズム戦略の見直しについてですが、ここが今回の検討会議の中で皆さんにご意見を伺いながら議論させていただいたところです。

今、エコツーリズム戦略の見直しを進めていくに当たりまして、インタープリテーション全体計画を策定していきたいということを環境省から提案させていただいております。

インタープリテーションは耳なじみのない言葉かもしれませんが、単純にエコツーリズムということで、どこを見てもらって、どういうことをやってというだけの計画にとどまらず、そこに来た人にどういうことを感じてもらえるか、この地域の魅力や、世界遺産として保全を続けてきた価値について、どういうことを来訪者に伝えていきたいかというところまで踏み込んだ計画をつくっていきたいというご提案をさせていただきました。

それを踏まえたエコツーリズム戦略の見直しの方向性としては、以下の三つの点です。

インタープリテーション全体計画の構成要素を念頭に置いて、知床の価値や来訪者へのメッセージ、望まれる体験、どういった体験をしてもらいたいか、そういったものをまとめて戦略に書き込んでいくこと、それから、先ほども少し触れましたが、アクティビティリスク、知床に来て、いろいろな体験をしていただいていますけれども、当然、自然の中の体験には様々なリスクが付きまといますので、そこの管理についても戦略の中にしっかり書き込んでいくという点です。

最後に、今、保護のためのゾーニングということで、国立公園で言うと特別地域とか特別保護地区といったゾーニングがされておりますけれども、今度は利用の部分も踏まえたゾーニングもしていくということを戦略の中に入れていく方向性について説明させていただきました。

基本的に、そういった方針については合意をいただいたものと思っておりますけれども、特に今申し上げたインタープリテーション全体計画の部分で来訪者にどういうことを伝えていくかについては、地域でこれまで長く自然の保護に取り組んできた方とか様々な事業をされている皆さんの意見を吸い上げてつくっていくことが大変重要と思っております。

今は環境省主導で進めておりますけれども、地域の皆様のご意見を集約して進めていくということをその場でもご説明させていただきまして、今後もご協力をいただければと考えております。

会議の最後で、開催されたのが６月ということで、後の議題でも出てきますが、６月の頭に科学委員会を臨時で開催して、知床岬の携帯電話基地局整備について議論をした直後だったこともありましたので、その件についてもこの会議でご報告をさせていただき、参加者からも意見をいただいております。

最後に、今後の会議運営ということで、今年度はもう一度、年明けの１月から２月頃に第２回目の会議を開催して、引き続き、エコツーリズム、適正利用に関して議論を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

ただいまのご報告に関しまして、ご意見などがありましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤）　ないようですので、次の議事に移りたいと思います。

続きまして、議事（３）の科学委員会からの報告につきまして、まず、事務局より各ワーキンググループ等のトピックスをお知らせいたします。

●北海道（真野）　北海道の真野です。

資料３につきまして、トピックスを表紙に記載させていただきました。

まずは、エゾシカワーキンググループです。

エゾシカの個体数調整についてですが、会議前日に知床岬地区の現地調査を実施し、植生の回復状況やエゾシカ捕獲用の施設について確認したことから、令和６年度の実行計画

案、特に知床岬地区での今後の対策方針を中心に議論しました。

次に、ヒグマワーキンググループからです。

ヒグマ対策についてですが、昨年度の大量出没及び捕殺により、第２期知床半島ヒグマ管理計画策定時に想定されていた個体数水準、生息数約４５０頭とは個体群の状況が変化しており、大量出没を踏まえて、地域として今後どのような水準で管理していくのかの考え方を中心に議論をしました。

海域ワーキンググループからは、第４５回世界遺産委員会決議に係る対応について、トドや海鳥に関する決議項目に係る報告内容の確認を行いました。

河川工作物ＡＰ会議からは、世界遺産委員会（ユネスコ）への保全状況報告、気候変動に対する順応的管理戦略の検討、ルシャ川、イワウベツ川、オッカバケ川のダム改良等の対応状況などについて報告と議論を行いました。

以上となります。

●北海道（遠藤）　ありがとうございます。

科学委員会も含めまして、各ワーキンググループから補足のご説明がありましたらお願いいたします。

科学委員会から補足の説明はございますか。

●環境省（吉田）　環境省釧路自然環境事務所の吉田です。

科学委員会についてです。

資料３－１に概要の記載がありますけれども、まず、例年、上半期には科学委員会を１回開催しているところですが、先ほども申し上げましたとおり、知床岬における携帯電話基地局整備の関係で、工事が与える影響についての議論が必要ということで臨時の会議が１回開催されましたので、今年度に関しては６月７日と９月４日の計２回開催しております。

科学委員会の今年度の上半期の一番のトピックスは、第２回会議の中で議論しておりますけれども、世界遺産委員会から、第４５回決議ということで、宿題事項のような形で保全状況について報告するように言われていた点がありまして、そちらの回答をここ２年ほどかけてまとめてきたところですが、今年の１２月に提出する必要がございますので、最終的な回答案をまとめさせていただきました。

こちらは、次の議題で詳しくご報告をさせていただきたいと思います。

科学委員会に関しては以上です。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

続きまして、資料３－３－１に関しまして、エゾシカワーキンググループから補足説明等はございますか。

●環境省（吉田）　続けて、吉田よりご報告させていただきます。

エゾシカワーキングについては、今年度の現状としまして、まず、ルサー相泊地区や幌別－岩尾別地区は比較的計画に沿って目標を達成しながらシカの個体数管理ができている

状況ですが、航空カウント、ヘリコプターで上空から冬期にカウント調査等をしておりますが、それでいくと、知床岬の個体数が大きく増えてしまっているような状況です。

その中で、昨年度、知床岬地区でエゾシカの捕獲を実施していた方がヒグマに襲われる事故がございましたので、今年度は知床岬での捕獲は一旦休止している状況です。ただ、その間に、今後、増えてきたエゾシカについてどう対処していくか、また、シカが増えている一方で、希少な植物とか、植生については回復傾向も見られておりますので、そのあたりをどういう形で評価していくか、そういった部分をじっくり考える年にしようということで、いろいろな検討を進めさせていただいております。

今後、第１回ワーキングでも委員の皆さんからこうしたらどうかというご助言をいただきましたので、そういったところも踏まえまして、今年度内に来年度以降のプランをしっかり検討して、適切な個体数の管理ができるように進めていきたいと考えております。

エゾシカについては以上です。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

続きまして、ヒグマワーキンググループから補足の説明がありましたらお願いいたします。

●環境省（吉田）　続けて失礼いたします。

ヒグマワーキングにつきましても、先ほど来話題になっておりますとおり、令和５年度に非常に多くのヒグマが出没して多量の捕殺が必要になる状況でした。

そういった中で、知床半島地域では、第２期ヒグマ管理計画を策定して、その計画に基づいて管理をしていたのですけれども、その中で想定とは全く異なる状況になってしまったので、今後の取り組み方を見直していく必要があるいうことで、今回のワーキングの中で議論をしました。

地域の皆さんからも、今後こういった大量出没が起きないように見直していってほしいというご要望をいただいていたところですけれども、専門的な知見等を踏まえてどういう形にしていくか、今回の第１回ワーキングの中ではまとまり切らなかったので、こちらも議論を続けて、今年度第２回目の会議でそのあたりの方向性を定めて、適切な管理につなげていければと考えております。

以上です。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

続きまして、海域ワーキングから補足説明がありましたらお願いいたします。

●北海道（真野）　北海道の真野です。

海域ワーキンググループの経過報告と今後の予定についてご説明させていただきます。

８月２３日に羅臼町内で第１回目のワーキンググループを開催いたしました。

主な内容としましては、長期モニタリング項目評価調書案について、第２期長期モニタリング計画において海域ワーキンググループが担当するモニタリング項目について、最新のデータに基づく評価を行いました。

また、第４５回世界遺産委員会決議に係る対応について、世界遺産委員会において決議された知床の保全状況に関する決議項目４のトド関連、決議項目５のトド関連及び決議項目６の海鳥関連について、報告内容の確認を行いました。

主な意見としては、トドに関する勧告については、動態モデルに基づき採捕枠を設定しているので、世界遺産委員会の決議に従った内容となっている、海鳥に関する回答については、今回はこのように回答するとして、２年後にはもう少し具体的な回答ができるように対応してほしいといった意見がございました。

気候変動に対する順応的管理戦略について、海域ワーキンググループが担当する部分を中心に内容の検討を行いました。

主な意見としましては、順応的管理の定義があったほうがいい、人為的圧力、管理手段があってしかるべき、ヒグマだと問題個体があるように、トドでも採捕枠があってもいい、因果関係について連鎖の線が足りないものがある、長期モニタリング計画について、順応的管理戦略に基づき考え方が変わっていく、気候変動の影響を把握するためにモニタリングを実施していくということを記載し、つながりが見えるようにしたほうがいいといった意見がございました。

今後の予定といたしましては、来年２月に札幌で第２回目の海域ワーキンググループの開催を予定しております。

以上です。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

続きまして､河川工作物アドバイザー会議から補足等がありましたらお願いいたします。

●林野庁（作田）　特にないです。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

それでは、これまでのご説明に関しましてご意見などがございましたらお願いします。

●ウトロ地域協議会（桜井）　ウトロ地域協議会の事務局をしております桜井です。

科学委員会並びに科学委員会の下に行われるワーキンググループの活動に関して、少し確認させていただきたいことがございます。

世界自然遺産に認定されてから、ずっと科学委員会及びワーキンググループの様々な活動によって、この地域の希少な動植物の保全が図られてきていることを十分認識した上での質問です。

特に知床半島、知床岬に関してのエゾシカの駆除に関して伺いたいのですけれども、この科学委員会、エゾシカワーキンググループで毎年活動を行い、エゾシカの駆除を行っているわけですけれども、知床岬地区で行われるエゾシカの駆除はいつごろ行われているのでしょうか。

●環境省（吉田）　環境省の吉田です。

いつからというのは、平成何年からスタートしたという趣旨でしょうか。

そちらは、調べて、後ほど回答させていただきたいと思います。

いつ頃というのは、何月頃という時期のことでしょうか。

●ウトロ地域協議会（桜井）　はい。

●環境省（吉田）　その時期についても、毎年、ある程度変わる部分がございまして、岬地区ですと雪がない時期にしか行けなかったので、グリーンシーズンの６月頃から８月頃に実施しておりました。年によっては、冬期の捕獲を実施してみようということで、冬場にヘリコプターを飛ばして捕獲員を送って実施したときもありますが、毎年の予算の関係や生息状況を踏まえて時期を決めております。今年度は実施していませんので、来年度のどの時期にするかというのはまた議論をしていく状況となっております。

●ウトロ地域協議会（桜井）　ありがとうございます。

今回、知床岬の基地局の関係で、科学委員会からも、調査が不十分だ、あるいはオジロワシに与える影響が指摘されています。

私たち地域はマスコミの報道でしか内容を知り得ていないのですけれども、この科学委員会では、毎年行われるエゾシカワーキンググループの活動、あるいは、そこで同時に行われるモニタリングの調査は、科学委員会全体あるいはそのワーキンググループの中でしっかりと情報共有されているのでしょうか。

●環境省（吉田）　エゾシカワーキングが植生の関係について担当しておりまして、植生のモニタリングについては、知床岬は毎年調査する地点がございますので、その情報についてはワーキングで議論をしております。ほかの地点でも植生のモニタリング計画がございまして、毎年とか、場所によっては５年に１度の調査となっていますので、それに沿った経過が報告されております。

知床岬ですと、昆虫とか鳥類も年によっては調査をするので、そういった情報はございます。

●ウトロ地域協議会（桜井）　これはマスコミの情報でしかないのですが、今回、工事が計画されて、それが実施されようとしたときに、オジロワシの営巣木があったり、天然記念物であるオジロワシへの影響という部分が大きく指摘されていたと地域では思っています。

そこで、これまで行われてきた岬におけるエゾシカの駆除のときに、科学委員会の中ではオジロワシに関する影響等のモニタリングあるいは調査、そして、本当に認識として、いるのかどうかに関しての質疑がこれまでもずっと繰り返されてきた中で進められてきているのですか。

●環境省（吉田）　エゾシカの駆除がオジロワシに影響を与えるかという趣旨ですか。

●ウトロ地域協議会（桜井）　そうですね。先ほど、夏の６月から８月、あるいは冬期にも行われる形になりましたら、ちょうど繁殖の時期ではないかと私たちは思っていました。

その繁殖の時期に、岬地区で、今まで、これは植生の保護のために必要ということで実施されてきた中では、例えば、銃声もあるでしょうし、冬期にカウントするときに上をヘリコプターが飛んだりするわけです。そういったことに関するオジロワシに対する影響と

いう話はこれまでなかったのでしょうか。

今回、オジロワシへの工事の影響が出ているときに、科学委員会で、私はこれまでこの会議の中で、毎年かなり丁寧な状態でエゾシカやヒグマの駆除が進められてきていると思っていたのですけれども、そういった部分の情報の共有は科学委員会のほうではされていなかったと捉えていてよろしいでしょうか。

●環境省（柳川）　今のシカの駆除とオジロワシへの影響というのは、過去のエゾシカワーキングの平成２０年度ぐらいのときに取りまとめております。例えば、営巣木ではないのですけれども、オジロワシが木に止まっているときに、何メートル以内に人がいる場合には影響があるので撃たないと。その辺の駆除の際のオジロワシへの配慮ルールは定めており、それに基づいて配慮しながら駆除をしてきた経緯がございます。

●ウトロ地域協議会（桜井）　分かりました。

今回の知床岬に太陽光パネルがどうこうということに関しては、地域でもいろいろな声が出ていますが、これまで基地局の設置に関しては、地域としては、本当にいろいろな声を聞いて、なおかつ、それに納得して進めてきたという認識があったものですから、その地域のモニタリング、ヒアリングを経て実施されるとなったときに、科学委員会のほうから待ったがかかったということに関しては非常に違和感を覚えていましたし、では、今まで岬地区でやってきた様々な事業、あるいは今回のような駆除で、オジロワシに対して何も問題がなかったのでしょうか。

なおかつ、オジロワシは地域では本当に増えているという実感がありますから、ウトロ地区でもトンネルをつくるときに営巣木の問題がありましたが、地域はオジロワシのたくましさという部分で、それよりも地域の人たちの安全、なおかつ、トンネルをつくったからといってオジロワシがここからいなくなってしまうことはないという意識でオーケーして進めてきたインフラ整備だったのです。

今回も同じ意識が皆さんの中にもあったと思いますし、地域でも、遺産地域だからこそ、しっかりとした調査やモニタリングのデータを基にして大丈夫だという形で進めてきた事業に関して、科学委員会から調査不足という指摘が入ったという点に関しては、非常に不信感を持ちましたし、不思議だという思いがありましたので、今、ここで確認させていただきました。

岬地区に、エゾシカワーキンググループの中では、オジロワシが主ではないですから、それがいたかどうかよりも、全体の植生調査もしていますし、そういった生息調査も環境省自体は行っていたと思うので、その辺の情報のやり取りがどのように行われていたのかなということを伺ってみたいと思いました。

当然、遺産地域の中で行われる様々なことは、多様な部分で情報はしっかり共有しながら進めていくべきであると私は思っていますが、そういった情報のやり取りはもうちょっとしっかりと行われるべきではないでしょうか。

先ほど、湊屋町長もおっしゃったように、ヒグマに関してもそうです。どこかに何か特

化するだけではなくて、全体の生態系をしっかりと見極めた形で、科学委員会共々動いていっていただきたいというのが地域の一つの大きな希望なのですけれども、その辺に関してはどのようにお考えでしょうか。

●環境省（岡野）　環境省の岡野です。

これまでも科学委員会、様々開催して、各ワーキンググループにつきましても会議を開催して公開で行ってまいっていますし、会議の資料は全て知床データセンターで公開をさせていただいております。また、今回の一連の会議の場でそれぞれ毎年議論された内容について協議させていただいているところでございます。

情報共有は本当に重要だと思っておりますし、その辺はこれまでも事務局全体として努めてまいったつもりでございます。

今、それ以上のコメントは難しいです。

●ウトロ地域協議会（桜井）　分かりました。

ぜひ一つにまとまって知床半島の全体の保全を考えていくという部分でのリスク、あるいは、よくなっていく点、また、必要なこと、そして、地域をひっくるめて、世界自然遺産の知床がきちっとずっと地域で暮らす人とともに保全されていくということを私たちは願っていて、こういう会議が開かれていると思いますので、ぜひ、その辺も今まで以上に相互にやり取りをして、本当に多様な視点からここの価値の保全を見極めていっていただきたいというお願いです。

●北海道（遠藤）　ほかにご意見等はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤）　続きまして、議事（４）第４５回世界遺産委員会決議に係る対応につきまして、環境省からご説明をお願いいたします。

●環境省（吉田）　環境省釧路自然環境事務所の吉田です。

先ほどもご紹介をさせていただきました今年１２月の提出に向けて、今、検討を進めております保全状況報告についてです。

資料４－１をご覧ください。

こちらが実際に回答する保全状況報告の案となっております。

１ページ目は要約ということで概要が示されております。２ページ目以降が回答の内容です。

時間の都合もありますので、簡単にご説明をさせていただきます。

まず、一番最初の決議項目３ですが、最近、気候変動が生態系に与える影響が非常に大きくなっている中で、気候変動の状況をしっかりモニタリングし、それを受けて、順応的に管理していく、その状況を踏まえて管理方針を見直しながら管理を進めていく、そういった戦略を策定するようにという要請を受けておりました。

この後にまた説明させていただく別添をつけましたが、知床世界自然遺産地域・気候変動に係る順応的管理戦略をまとめさせていただきました。今回、新しくつくった戦略にな

りますが、今後はこちらにのっとって順応的な管理を進めていきたいという回答をする予定になっております。

続きまして、決議項目の４と５は、先ほど北海道庁の海域ワーキングの補足説明の中にもございましたけれども、トドの管理に関する部分です。

こちらも科学的な管理ができていないという指摘を受けておりましたけれども、今年、トドの管理基本方針が改定されまして、その中では、知床地域に来るような繁殖個体群についても個体群動態モデルということで、科学的な根拠に基づいて、こういった挙動を示すだろうという想定をした上で捕獲、こちらで言うと駆除という考えになるのかもしれないですけれども、可能な数を定めました。

管理方針には、そのように、しっかり科学的根拠に基づいて、加えて、その中でも計算どおりに進まないところも多々ありますので、状況を踏まえながら予防原則に基づいて、なるべく個体群管理に支障が出ないような形で見直しを加えながらやっていくと書いてありますので、順応的な管理をしていきますという回答をする予定になっております。

決議項目６については、継続して実施している海鳥のモニタリング調査の結果で、一部の種、ウミネコ、ウミウ、オオセグロカモメというあたりは、第１期の長期モニタリング期間、２０１２年から２０２１年ですけれども、その間で大きく減っていました。その件について、現状の要因が特定できていないということなので、そのあたりをしっかりと改善することが必要ではないかという提案を受けていまして、こちらについては、現状では回答できる中身がないので、引き続き原因を推定していくという回答になっております。

決議項目７は、今申し上げた長期モニタリング計画に関するもので、こちらも内容の見直しを図るようにという要請を受けておりましたので、昨年度の地域連絡会議でも改定案についてご確認をいただきまして、今年の３月、昨年度末に改定作業を完了したところでしたけれども、今回の回答に添付して回答したいと考えております。

決議項目８については、河川工作物の改良に関して、基本的にはルシャ川の改良事業に関して継続的に勧告を受けているところです。こちらも、工作物の改良、河川と海との連続性を回復させていくという事業が一段落しましたので、そういった内容を回答するとともに、引き続き、それによってサケの遡上や自然産卵の環境が改善していくかというところをモニタリングしていくという回答になっております。

回答の内容については以上です。

先ほど申し上げた一番最初の決議項目３に関連して、今回、新しく資料４－２に添付しました気候変動に係る順応的管理戦略を策定しました。

冒頭に申し上げましたとおり、気候変動による影響をしっかりとモニタリングしながら、その影響をなるべく低減していくような管理をしていくものになっています。

ただ、気候変動による影響に関する知見が現時点で十分に集まっているわけではない中でつくった計画になりますので、内容としてはまだまだ煮詰まっていない部分もあります。ですから、今回これをつくったことをきっかけに、今後、観測された生態系への影響が気

候変動の影響で生じたものなのかという調査や情報集積をまず頑張っていこうという形で使っていければと思っております。

内容を全部説明すると時間がなくなってしまうので、８ページをお開きください。

８ページ目以降に矢印でいろいろな箱がつながったものがございまして、これはインパクトチェーンと呼ばれるものでして、気候変動というところからスタートして、それらが引き起こす影響を、これは長期モニタリング計画でモニタリング対象としているいろいろな生物ですが、各生物にどういった影響を与えるかを連鎖という形で表現したものです。

今回、これを整理したのがこの戦略の大きな成果かと思っておりまして、今後は、モニタリングをしていく中で、個体数の減少や分布の変化が起こったときに、それがどういった要因で起こったのかをしっかりと見定めて、それが気候変動によるものであれば原因を取り除くのはなかなか難しいのかもしれないのですけれども、人為的な影響によるものであれば、そこをなるべくなくしたり、環境によるものであれば、自然環境をもう一度回復させるといったアプローチを取って、気候変動で影響を受けてもその生物の個体群が存続できるような状態を維持していくことを目指していくために活用していく予定となっております。

詳細を説明していると時間がなくなってしまうので、概要の説明のみになりましたけれども、今回、この場でこの内容についてもご確認をいただきまして、最終的には国の機関の決裁を経て世界遺産委員会へ回答させていただければと思っておりますので、ご確認のほどをよろしくお願いいたします。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

それでは、ただいまご説明のありました世界遺産委員会決議に係る対応に関しまして、ご意見などはございますでしょうか。

●羅臼町（田澤）　羅臼町の田澤です。

４ページに、先ほど話題に出ていましたけれども、携帯電話基地局の整備について情報照会があったことを受け、日本から回答したとなっていますが、その回答の内容を教えてもらえますか。

●環境省（吉田）　回答内容については公開していないのですけれども、９月の科学委員会でも少し報告させていただきましたが、基本的には事実関係の確認ということでありましたので、６月に開催した科学委員会の際にご説明させていただいた内容や資料を抜粋したような回答になっております。

●羅臼町（田澤）　私はいいのですが、科学委員会に出ていらっしゃらない方もいます。

●環境省（吉田）　大変失礼いたしました。

工事の概要ということで、どういった場所にどういう規模のものをつくるか、どういう計画になっているかということを事実関係としてご報告させていただいております。

●北海道（遠藤）　ほかにございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤）　なければ、次の議事に移りたいと思います。

続きまして、議事（５）知床国立公園６０周年・世界遺産２０周年記念事業につきまして、環境省からご説明をお願いいたします。

●環境省（二神）　環境省ウトロ自然保護官事務所の二神と申します。

私からは、知床国立公園６０周年・世界遺産２０周年記念事業の実施状況についてご報告させていただきます。

資料５を見てください。

まず、周年事業は世界自然遺産に認められた普遍的な価値をはじめとする知床ならではの価値を再認識するとともに、知床と周辺地域において良質な自然体験を通じて知床ならではの価値を継承する取組を推進することを目的に今年の４月から行われています。

周年事業は、２０２４年４月から２０２６年３月までの２か年間、斜里町、羅臼町、北海道、林野庁、環境省の五つの行政機関でつくる実行委員会で各種事業を推進しています。

これまで、「海と、森と、人がつなぐ。」というテーマを定め、周年記念事業のロゴマークの作成を行い、各種周年事業に使用してきました。

周年事業は、実行委員会の主催事業として、５月７日にメディア向けフォーラムを東京の新宿御苑で開催し、羅臼町と斜里町の両町長にも参加していただき、知床の魅力を発信してまいりました。

２ページ目です。

６月１日には、知床国立公園指定６０周年記念シンポジウムを斜里町のゆめホールで開催し、自然とどう向き合うかということをテーマに基調講演、それから、各町から取組の発表、パネルディスカッションを行いました。基調講演では河﨑秋子先生にご講演をいただき、来場者数は３００名ほどと、好評を博したシンポジウムとなりました。

続きまして、９月の１４日、１５日に、羅臼町のオートキャンプ場と斜里町の知床自然センターにて、ＳＨＩＲＥＴＯＫＯ　Ａｄｖｅｎｔｕｒｅ　Ｆｅｓｔｉｖａｌを開催しました。

それぞれの会場を中心に、キャンプや映画祭、それから、羅臼岳、羅臼湖でのアクティビティー等のイベントを同時に開催し、盛り上がりのあるイベントとなりました。これらのアクティビティーの延べ人数で１９０名ほどの参加があり、知床の自然の魅力を満喫できるイベントになりました。

また、関連事業としまして、関係機関や団体が例年行っているイベントに周年の冠をつけて一体的なＰＲを図るということをしておりまして、３ページ目に２０２４年度の関連事業カレンダーとして添付されております。２０２４年度を通して、周年を冠したイベントを実施して一体的なＰＲを図っているところです。

次に、４ページです。

今回示したのは、２０２５年度に予定している実行委員会の主催行事の一つと考えています知床世界自然遺産登録２０周年記念イベントです。

これは、実行委員会で検討をし始めたイベントの概要です。

まず、式典とシンポジウムを斜里町で、７月１２日または５日を候補に検討しています。世界自然遺産地域への気候変動の影響をテーマにシンポジウム、パネルディスカッションができないかということで議論を進めているところです。

また、地域で知床世界自然遺産を再認識することを目的に、知床の周辺地域を含めて地域を巡回するようなパネル展ができないかということも検討しています。

今回は、実行委員会で検討している周年事業について、シンポジウムでやってほしいことなどのご意見や、ほかの周年事業について、企画のアイデアやご要望があれば、今日ご参加の皆様に伺いたいと思っております。

私からの資料の説明は以上になります。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

ただいまのご説明に関するご意見等がございましたらよろしくお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤）　ないようですので、次は議事（６）の講演になりますけれども、ここで休憩を挟みたいと思います。

〔　休　　憩　〕

●北海道（遠藤）　それでは、議事を再開させていただきます。

議事（６）の寺山様からのご講演ですけれども、その前に、先ほどワーキンググループのご報告のところでお問合せがありましたエゾシカのモニタリングの開始時期について確認が取れたそうなので、ご報告をいただいてからにしたいと思います。

お願いします。

●環境省（吉田）　先ほどは即答できずに申し訳ありません。

エゾシカの知床岬の個体数調整は平成１９年から取り組んでおりましたので、回答させていただきます。

●北海道（遠藤）　それでは、議事（６）北海道東トレイル運営事務局の寺山元様より、歩く旅から見える知床の価値についてご講演を賜りたいと思います。

それでは、寺山様、よろしくお願いいたします。

●寺山　皆さん、こんにちは。寺山と申します。

この正式な会議の中で唐突な話題提供になりますが、ご笑覧いただければと思います。

お手元の資料の最後に１枚、北海道東トレイルとはというパンフレットのコピーが入っていると思います。

今年の１０月５日に、北海道の東にあります釧路湿原、阿寒摩周、知床という三つの国立公園をつなぐロングトレイル、歩く道が開通しました。１４市町村の方にご協力をいただき、環境省が音頭を取って開通したトレイルなのですが、それについてお話をさせてい

ただきます。

私は、この関係で２０日間ほどずっと歩いておりまして、このプレゼン資料はスマホでつくったものですので、ちょっと雑なところがありますが、どうかご容赦いただければと思います。

私は寺山と申しますが、知床に住んで１９年ほどになります。最初の１４年ほどは知床財団で働いておりました。その後、知床しゃりという社団法人で５年ほど働いて、ただいまは知床でガイドをやっています。ですから、今、私はツーリズムのほうの人間だとご理解いただければと思います。

個人的には、ツーリズムが地域を本当に幸せにし得るのかというテーマでいろいろ動いていて、その中でロングトレイルがその可能性をひとつ感じるものだということで、今、関わっております。

歩く旅といっても、北海道の方はほぼ歩きませんので、そういうものがあり得るのかというお話をします。そして、北海道東トレイルについて少しご紹介をできればと思います。三つ目は、道東スルーハイカーズと書いてありますが、道がつながりました。４１０キロメートルの道がつながりましたといっても、歩いている人がいなければ道にはなりませんので、試しに釧路から羅臼まで歩いてみようというイベントを２０日間ほどやっています。今日は、歩いている最中に横断道路が閉まったので、車に乗せられてここまで来てお話している、まさに歩く旅の途中なのです。３０分弱のお時間をいただきましたので、お話をさせていただきます。

今、日本では、歩く旅、ロングトレイルが新しい旅の形として捉えられております。そもそも旅というのは家から出て家に帰る１本の線です。皆さんは観光の現場でＤＭＯという言葉を聞かれたことがあるかもしれません。その地域の観光協会を少しバージョンアップして、地域のいろいろな観光をマネジメントしましょう、あるいはマーケティングしましょうという組織です。一生懸命、各地で、うちに来てください、うちに来てくださいと頑張っております。羅臼も頑張っていますし、斜里も頑張っていますし、各地も頑張っているわけですが、そこの町に来てくださいというのは、自分の点に来てくださいというプロモーションなのです。ですから、長い１本の線が点で交わるのは大変なのです。

というのが各地の実感だと思います。特に、北海道の東は、非常に個性的なまちがかなり薄く広がっているのです。その点に結びつけるのは難しいので、一つの線につながったまち達がありますよ、その線と交わりに来ませんか、歩きませんかというほうが合理的だなと、こういう感覚が各自治体にあるように思います。知床はかなりビッグネームなので点でアピールしても来られると思いますが、各地域、いろいろ人口も減って課題もある中で、一つの点に来てもらおうというよりは線にすべきではないかという感覚が実感としてあります。その上で、ロングトレイルというのは、実はこの地域を知ってもらう、来てもらう、あるいはファンになってもらうというところで合理的なのではないか、そんな感覚があります。

ロングトレイルは世の中でぼちぼちと一般ワードになってきていますが、長く歩く旅をする道だということですから、日本の中で言えば、四国のお遍路さんが非常にイメージに合うところではないかと思います。熊野古道とか、宗教に根差したもので言うと、キリスト教でもカミーノ・デ・サンティアゴというスペインの巡礼道もあります。人間の原点に近いような行動ですし、四国のお遍路さん１，２００キロメートルぐらいの道だそうです。アメリカでは、自然を楽しむという趣旨でロングトレイルがあって、４，０００キロメートル以上の道もあるとのことです。

そんな長い道をハイキングして歩きましょうと、ロングハイキングというのを提案しています。ハイキングというと、草原などをスキップしているようなイメージですが、基本的には宿泊を伴う旅です。

山登りとどう違うのかという話になりますが、山登りは、何かの目的地、ピークに向かって、全ての装備を積んでアタックするというイメージです。一方ロングハイキングは、長い旅なので、必ず補給でまちにおります。ですから、まちと関わるというのが特徴、違いではないかと思います。

私は今日が２０日目ですけれども、まちに補給におりるのです。まちが小さくても、人が住んでいるところに行くと、めちゃくちゃうれしいのです。それが山登りと大きく違うなと感じます。

北海道の場合は、そこかしこに温泉があったりするので、それが楽しいですね。

歩く旅の実際の魅力というのは、スピード感が圧倒的に違いまして、車だと通り過ぎてしまうようなシーンとか、音とか、匂いに歩くと気づくのです。私は自転車も好きでよく乗りますが、自転車でも音は飛びます。匂いもよく分からないです。

そういう意味では、我々はほぼ車で移動する暮らしをしていますが、人間の機能的には歩くぐらいが感性の限界なのではないかということを歩く旅をしていて実感します。

今、まちを歩いていますが、まちによって匂いがあるのです。畑のまちになったなということを看板を読むわけでもなく感じるのです。そのように、地域や自然環境に触れるというのが歩く旅の魅力ですし、自分の体を使っている感じが非常にします。

そんな旅が日本の中でかなり成功している事例もあります。

東北にあるみちのく潮風トレイルです。約１，０００キロメートル、青森県の八戸市から福島県の相馬市まで、なんと４県２９市町村をつなぐロングトレイルです。先日、つながって５周年の記念イベントをやったと聞いております。

東北はご存じのとおり東日本大震災で大きな被害を受けたところですので、復興という意味も含めて、環境省がかなり汗をかいたと聞いています。

私は昨年１０日分だけ歩きましたが、すばらしかったです。各地でいろいろなシーンがあります。リアス式海岸、森林、崖があり、海岸があり、いろいろな漁港があったりするのです。サケのふ化事業をすごく大規模にやっている港があったり、森の中に入ればその中に畑があったり、景観と暮らしが順番に訪れてくるという旅になります。

海外からも、老若男女、いろいろな方が来て旅をしています。そこでまちの人と少し触れ合って遊んでいるという話をいろいろ聞きました。私は日本人ですから、まちの人から普通に話を聞くと、そういう人がよく来ているということを教えてくれます。

５年たって、トレイルが東北に根を張りつつあるのだなということを、一旅人をして実感しました。

１，０００キロメートルですからデータを取るのは大変だそうですけれども、昨年度は延べ１２万４，３１４人が歩いたそうです。１，０００キロメートルですから、歩くと全部で６０日くらいはかかるので、６０日を一度に歩く方はあまりいないそうですが、１日だけ歩いた、あるいは３日間歩いたということで、１人が６０日歩けば６０とカウントしたらのべ１２万４，３１４人の方が歩いたということだそうです。

意外と歩いているのですね。私が歩いているときは他の人とほとんど会わないです。１２万４，０００人が３６５日、１，０００キロメートルに散らばっているのですから、いわゆるオーバーツーリズムになるようなツーリズムではないです。

私自身の最初のロングトレイル的な体験は、カミーノ・デ・サンティアゴというスペインにあるクリスチャンの聖地に向かっていく巡礼道です。世界的に非常に有名でして、複数の道がありますが、私が行ったフランス人の道というのは、年間３０万人の方が通しで踏破します。大体４０泊から５０泊しますので、延べ泊数だと４０掛ける３０万という、かなりの観光スケールになっています。巡礼者という宗教に基づいて歩いている方はそんなにいらっしゃらないけれども、一つのツーリズムのコンテンツになっているというところです。

こういう漠々としているところを歩いたり、まちの中を歩いたりしますが、ホタテガイのマークがあると、ここが巡礼道であるということと、ホタテガイのマークを背負っていると、巡礼者なのですよねというような伝統的な申合せがあります。そういうところで人と出会い、あるいは地域と出会うという形で、３０日もいると、とても奇跡的なすばらしい夜を過ごしたりします。

ここに、象徴的な言葉で「ブエン・カミーノ」とあります。スペイン語で、ブエンというのはよき、カミーノというのは道なので、よき旅路をという言葉ですが、人々が出会ったら、挨拶で「ブエン・カミーノ」、別れるときも「ブエン・カミーノ」、よき旅路をと言うのです。私が教会の前で泥だらけの状態で休憩していて、まちのおじいちゃんがてくてく歩いてきました。私は、小汚いアジア人が教会の前で休憩しやがっているなみたいな目で見られているなと思ってドキドキしていると、おじいちゃんが通りすぎるときに「ブエン・カミーノ」と声をかけてくれるのです。「受け入れられている」と猛烈に感動しました。その一瞬で、そのまちのファンになってしまうのです。

多分、そういうことが何気なく１，０００年ぐらい続いてきて「ブエン・カミーノ」という言葉が、この道の文化になっているわけです。

そういったものが北海道にもできたらいいのではないかということで、北海道東トレイ

が１０月５日に開通しました。

こちらのシンボルマークは、アカエゾマツを想定した樹形、この下の円はカルデラと見ていただいてもいいし、海と見ていただいてもいい。三つの国立公園それぞれの環境を表現しようとしたものです。

釧路から羅臼までですね。この地図の青い線が、南北に延びる線で３５０キロメートル、弟子屈からオンネトーまで伸びる東西の線が６０キロメートル、合わせて４１０キロがトレイルになっております。

南北の線で歩きますと、最初は釧路の湿原から歩いて、標茶の辺りは酪農エリアが爆発的に広がる、阿寒摩周国立公園ではカルデラ、火山を感じられるエリアとなり、そこから清里、知床の基部に入ってきますと畑作のエリアですね。知床は海のエリアだということを実際に歩いてみて強く感じました。

北海道らしい風景といえば道東だよねという話があると思いますが、まさにそれを感じる行程です。

北海道東トレイルは、環境省が全ての道を管理しているのはなく、国道もありますし、道道もありますし、市町村道もあります。１４の市町村と各関係団体がそれぞれの道をつないで未来に続こうということなので、トレイル憲章を定めて、そういった人たちが協働することを目指しています。当然、人間の一世代より長い時間がかかると思いますので、トレイル憲章をつくりました。関わる人は立ち上げからどんどん変わっていくと思いますが、誰もが立ちかえるべき原点になればと考えています。

トレイル憲章は６つの文章でこの道を表現しています。

一つ、この道は道東の多彩で多様な風景と風土を楽しむ道であると、楽しんでもらう道である、それが最初の入り口であろうと思っています。

二つ目、人と自然のあるべき関係を考える学びの道です。我々、この自然の中で生きると、命とかいろいろ学ばせていただいているかと思います。そういった学びを旅人の方にも感じられるような、具体的にというのはなかなか難しいのですが、そういう学びの道にしようと掲げています。

３つ、この土地の自然、歴史、文化を敬い尊ぶ道である。地域へのリスペクトというのは旅人の必須なものだと思いますけれども、それを我々も持って旅人に訴えかけましょう。

４、類いまれな道東の豊かさを未来につなぐ道にしましょう。未来へつなぐという目的意識をお互い常に持ちましょうということです。

５番目は、この道は地域の人々とハイカーが心を重ねる道です。これは必然的に各地でどんどん起こっていくのだと思っています。今のところは私のスペインの写真が載っています。各地でこのようなことが起こること期待しています。

最後は、ここに関わる全ての仲間がともに育てる道であるということです。

この会議の参加者の皆さんは世界遺産の下に協働をいただいていると思いますが、これをさらに広く４００キロメートルの道沿いに一緒につくりましょう。

この六つの憲章を掲げて、
最後は非常に詩的な文章で締めています。

ロングトレイルというのは人間の原点である歩くという行為を通して、いろいろな原点に出会う旅であろうと。自然と風土と自分に出会う、そういう旅をすることによって、人と自然の幸福な未来を指し示す希望の道しるべになることを心より願います。この憲章を掲げ、１０月５日にオープンになったところです。

道は、人が歩いて初めて道になりますので、まず最初に一度通して歩いてみようということで、今、あるイベントをやっています。

１０月１０日から３０日までで一緒に歩きませんかということで、今、釧路から２人が通しで歩いております。そのうちの１人が私で、もう一人は横断道の途中で置いてきたのですけれども、３０日にゴールする予定なので、明日、峠を越えて羅臼でゴールする予定のところ、この会議のために一足先に車で到着してお話をしている状態です。

釧路を１０月１０日に出て、赤いラベルの日付を貼っていますが、一番上についている丸はＧＰＳ上のもう一人のハイカーの現在地で、今、横断道の途中を歩いている状態です。

ここら辺がどんな風景だったのか、ちょっとだけご紹介しようと思います。

今まで１９泊していますが、できるだけ宿に泊まっています。宿というのは地域の方と外から来る旅人が出会う場所ですから、そういうところにハイカーがいるのだ、そういう道が通ったのだというお話をして、できれば、地域の人も、そんなのができたのだ、面白そうだなと来ていただければと思うので、泊まる宿で交流会をやっています。

唐突が企画ですから、そんなに来ないだろうと思ったのですけれども、一番集まったところでは弟子屈の交流会で１７名ぐらいいらっしゃいました。１７名プラス泊まりのお客さんも参加して、泊まりのお客さんが全員外国人だったのです。外国人のお客さんには英語をしゃべられる方が横について、こういう長い道の話だよとやっていて、とても面白い状況になっています。

非常に印象的だったのは、歩いている道を全てＧＰＳで公開しているので、自分のうちの目の前を通りそうだから差し入れを持って待っている方が結構いらっしゃいました。

このおじさんがこの旅の中でとても印象的な方だったのですが、釧路のバーのマスターなのです。歩き出す前の日にご飯を食べに行ったときに、歩くのですよと話をしたと思ったら、翌日、道端でやあと言ってウイダーインゼリーを持って待っていたのです。この一瞬で釧路が大好きになりました。何ていいまちなんだと思えるようなことが起こりました。

歩く道の８割ぐらいは道路で、新しい自然歩道は２割ぐらいです。舗装路もありますし、農道のようなところもあります。通常の道路管理者の方が管理している道を歩かせていただいています。山登りの人からすると、舗装路を歩くなんてと言いますし、私もそう思っていましたが、これがとてもいいというか、歩きやすいわけです。私どもが自然遺産の中でお客さんと一緒に行くときは、かなり緊張感があります。自然圧が強いのです。そんな中で、匂いを感じたりとか、感受性が開いてわっとなるのに、ちゃんと道路になっていて

車が通らないところを歩くのがいい。実に感性が開く感じがありまして、気持ちいいです。自然を感じるために道路を歩くのは実は気持ちいいということが分かりました。

これは津別峠に登る道道ですけれども、交通量が少ない状態で道を歩くと、周りの木の匂いなどがどんどん入ってくるので、標高が上がって木が変わってきたねというのもすっと入ってくるという意味では、自然環境を味わう中で道を歩くというのはめちゃくちゃ有効だと思います。

その中で、屈斜路外輪山は、新しく道をつけていただきました。美幌町とか、津別町とか、自治体の方がいろいろ調整して、道をつけて運営しますというところを歩かせていただきました。これはすばらしかったです。屈斜路湖がこういう見え方をするのかということ。最初ですからとてもきれいな管理をしていただいて、こういう道を歩かせていただきました。

これは、藻琴山に向けて新しくつくられた道です。ここら辺はかなり人気になるだろうという実感があります。

藻琴山から降りてきて林道を歩いたら屈斜路湖に至るということで、１日でどんどん風景が変わっていく体験がダイナミックにできるところです。

そんなところに新しく北海道東トレイルの道標がついて、一つのつながった道を歩いているのだなという実感を得ることができました。

これは一昨日ぐらいの写真ですけれども、斜里のほうにおりてきますと、最初に広大な畑が出てきて、北海道らしいと感じる一つはやっぱりこれなのだなと感じました。

こういう道を歩いていきました。

今日、いよいよ知床横断道で味わおうとしたところですが、今日の午前中は知床横断道が閉鎖になっていまして、今、スケジュールを変えてここに立っています。スケジュールを変えていろいろ動くというのもこういう旅ではよくある話です。

多分、お金持ちの方もいるでしょうけれども、これは、時間のある人、時間持ちの方の旅になるのではないかと思います。

最後に、歩く旅というのは感性の冒険ということを非常に感じました。今、北海道でアドベンチャートラベルを一生懸命やっています。私たちが、２０日間も歩いていると冒険しているように思われていますが、実際には、宿に泊まって、朝ご飯を食べて、晩御飯を食べて、温泉に入って歩いているので、日常業務より心も体も健やかになります。その分、広い道を歩いて鳥の声を聞くと、とてもいろいろな感性が刺激されます。体力的というより、感性のほうがすごく冒険をする、そんなことを実感します。

今の旅があと１日、２日で終わるというところになりますと、我々は運営事務局なので、さあ、この後どんなことをしなければいけないかと悩みながら歩いています。例えば、車がいなければ大丈夫なのだけれども、車が通るとやっぱり怖いなとか、あそこの道路を人が歩いていますが、標識でもついたらいいなとか、道路管理の方にお願いするのはどうしたらいいかなとか、非常に具体的な作業も思い浮かべながら、現実世界に帰ってきつつあ

ったのですけれども、一昨日、家族の方が参加されました。家族連れがＧＰＳを見て参加しますといって来てくれたのです。小学校１年生と５年生と４歳とお父さん、お母さんが来て、爆発的に楽しく歩いたのです。むちゃくちゃ楽しかったです。

地域が幸せになれるようなツーリズムをなどと思っていましたが、ある方に、ツーリズムではないものをいかに巻き込むことができるかがツーリズムの価値ですと言われたことがありまして、この家族は本当に象徴的だったのですけれども、楽しんでもらえたなと思いました。

歩くと楽しいので、ぜひ一緒に歩きましょうというのが今の段階で、この旅での実感です。今言えるのは、この一言です。

ふだん、皆さんは１００メートル先のコンビニにも車で行くのをよく存じ上げておりますが、ぜひ一度、歩いてみていただければと思います。楽しいです。ぜひ一緒に歩いてください。

私の話は以上です。ありがとうございました。（拍手）

●北海道（遠藤）　寺山様、大変ありがとうございました。

せっかくの貴重な機会でございますので、ただいまのご講演について皆様からご質問などがございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

●北海道（濱田）　オホーツク総合振興局の濱田と申します。

私、大部分が舗装路だということを全く知らず、すごい道をこんなに長く歩くのは大変だなと思っていました。

まだ模索中なのかもしれないですが、これを普通の方にプロモーションしていく中で、壮大な道の中の一部を歩いてくださいというお話になるのか、それとも、ここととここはこういう目玉がありますよというお話になるのか、休み休みでもいいので、やはり全行程を歩いてほしいという中身になるのか、今の段階で何か思うところがあれば教えていただきたいと思います。

●寺山　ありがとうございます。

おっしゃるとおり、突然２０日間の時間が空いたからどんどん歩くという方はいらっしゃらないと思います。ですから、１本につながった道のどこかを歩き出すというのが始まりだと思いますし、ツーリズムとしてはそういうツアーをつくっていただけませんかという動きをしております。

欧米系の方のツアーをつくる方に来ていただいて、ハイライトを歩いて回って、ここととここはツアーにできないかというような話もこの９月にやりました。例えば、外輪山、屈斜路湖、阿寒湖の辺りはツアーができるよねとか、そのときの話は、気持ちよく歩けるところはどこかということになります。

そういうことは普通の方がちょっと歩いてみようというときにもヒントになると思いますし、今回、我々が２０日間歩いたコースは、軽い荷物で一日で歩けるぐらいのところを宿に泊まっていたのですが、そのまま公開されています。これはヤマレコというところに

も公開しますので、皆さんがコピーして歩き出すのではないかと思います。

来年の春まで横断道も閉まりますから、実際、今シーズンはもう終わりで、このデータを見ていただいて、皆さん、この辺に行ってみようかなというふうに動き出すのが来年の春からだと思います。

多分、海外の方を含めてスルーで歩く方は、ぱらぱらとはいらっしゃると思いますが、そこからいろいろな問題、課題、感想が出てくると思うので、これからその道をつなぎ続けるために、いろいろあがき出すのではないかと思います。

これも、ぜひ一緒に歩いてみましょうということでお願いいたします。

●北海道（遠藤）　ありがとうございます。

ほかにどなたかお聞きになりたいことはありますか。

●ウトロ地域協議会（桜井）今回、寺山さんが１０日から歩き始めた記録が残るではないですか。先ほどちょっとおっしゃっていたヤマレコのような形の記録ができればいいなと思いました。

みちのく潮風トレイルとか、こういったところが全体的に広がっていくと、一遍には歩けないので、要所要所、区切り区切り歩く、ちょうど四国のお遍路さんを歩く人たちは、今、そういう形でやっていると思うのです。斜里にも何人かいて、３年かけて全部回ったということで、回った記録が、御朱印みたいなものを押すではないですか。そういう代わりになって、例えば全部を２年間かけて歩いたとか、その人がやったという達成感も得て、なおかつ、その人の感想が書けて、本当にヤマレコになるのですけれども、ウェブを使ってやっているところはほかにないでしょうか。

そういうことができたらすごく楽しいかもしれないと思うのですけれども、運営を含めてそういうところはないのでしょうか。

●寺山　そういうものをつくらなければねという話をしていましたが、おっさんが考えてもしようがないので、今、一緒に歩いているのが２８歳の男子です。そっちは早くて、フェイスブックでやってみますかみたいな話で、ニュースタイルのフェイスブックを立ち上げています。

みちのく潮風トレイルに関しては、公式のフェイスブックサイトではなくて、実際に歩かれた方が立ち上げた、英語に関しては英語のページのほうがコミュニティー化しているという話を聞いています。うまく盛り上がるところはそれができるのだと思います。まさに楽しかったということです。

結局、観光というのは、地域がその土地のファンになるということが一つの成果だと思うのです。そういうつながりがコミュニティー的になっていく、そうすると、知床や阿寒のサポーターなり、ファンになり、できれば少し貢献したいという、うまく盛り上がる場をつくっていくというのは物すごく大きなテーマだと思います。着手はしていますが、まだ正解が見えているわけでも何でもないですが、冬の間にたくさん悩みたいと思っております。

●北海道（遠藤）　ほかにもうお一方ぐらい、何かございますか。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤）　改めまして、寺山さんへ拍手をお願いいたします。

どうもありがとうございました。（拍手）

それでは、議事（７）のその他になります。

事務局で用意をしているものは特にございませんが、ご出席の皆様から何かございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤）　特になければ、予定されている議事は以上となります。

最後に、第２回地域連絡会議の開催予定地である斜里町の芝尾副町長からご挨拶をいただきたいと思います。

●芝尾斜里町副町長　皆様、大変お疲れさまでした。

本来であれば、斜里町の山内町長よりご挨拶を申し上げるべきところでございますが、本日、他の用務の都合により参加できず、代わりまして、私、芝尾より一言ご挨拶をさせていただきます。

本日は、知床の世界自然遺産の適正な管理の在り方を検討するとともに、効果的な保全管理、普及啓発等を推進することを目的として開催されました本会議におきまして、関係行政機関の皆様からの事業報告、各部会や科学委員会からの報告、また、北海道東トレイル事務局の寺山様より、「歩く旅から見える知床の価値」と題したご講演を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、この知床におきましても、気候変動が環境に与える影響や地域の人々の生活、産業の営み、安全の確保など、様々な社会情勢が変化していく中で、本日ご報告をいただきました情報の共有や対応策の協議は非常に重要であると考えています。また、こうした内容を踏まえた観点から適正な保護管理に努め、知床の自然環境の保全と適正な利用を進めていくことが大変重要と考えております。

知床の普遍的な価値を次の世代に引き継いでいくためにも、斜里町も皆様とともに取組を推進してまいりたい所存です。

今年は知床の国立公園指定６０周年、さらに来年は世界自然遺産登録２０周年というメモリアルイヤーとなっております。斜里町におきましては、昭和４６年に策定しました第１期総合計画から、本年度よりスタートしています第７次総合計画まで一貫して基本テーマを「みどりと人間の調和を求めて」として、これまでまちづくりを進めてまいりました。今後も、知床の普遍的な価値を次の世代に引き継いでいくため、皆様と一丸となり、取組を進めていきたいと考えております。引き続き、ご指導、ご助言のほどをよろしくお願いいたします。

最後になりますが、次回の会議開催地は斜里町でございます。ぜひ斜里町にお越しいただきますようお願いを申し上げまして、簡単ではございますが、閉会のご挨拶とさせてい

ただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

●北海道（遠藤）　芝尾副町長、大変ありがとうございました。

皆様のご協力を賜りまして、無事、全ての議事を終了することができました。どうもありがとうございました。

４．閉会

●北海道（遠藤）　以上をもちまして、第１回知床世界自然遺産地域連絡会議を閉会いたします。

次回の地域連絡会議は、来年３月に斜里町での開催を予定しております。よろしくお願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

以　　上